

サブリース方式部門に係る指定物件の周辺の景観特性について

■ 施設の立地場所の特徴について

指定物件が立地する万町地区については、江戸時代の城下町のうち、町人（職人・商人）居住地となっています。

また、東西方向の「**万町通り（東西方向）**」と、南北方向の「**西堀川通り**」が交差する北東側角地に位置します。

■ 施設整備に当たっての景観特性（参考）

街並み景観との調和を図るためには、それぞれの通り方向からみた街路景観や周辺建物の状況を踏まえた上で、建具や外構、色調などに配慮した外観デザインが求められます。

以下、**参考までに当該地の景観特性についてまとめましたので、デザイン検討の際の一助としてください。**

① 万町通のまちなみ景観

宮津の町家建築の基本構成は京町家と同じで、東西方向の街路に沿って、切妻造平入の建物が街路に沿って連なりますが、万町地区はこのような伝統的な町家の遺存度が高い地域です。

特に、今回の指定物件の東に隣接する「今林家住宅（国登録文化財）」は、宮津を代表する町家建築の一つであり、町家景観としての連続性が求められます。

【今回の指定物件（万町通側）】



万町通り側



万町通り（西堀川交差点 西から）

【周辺の町家建築（万町通側）】



万町通り・今林家住宅（天満宮鳥居 東から）

② 西堀川通りのまちなみ景観

金屋谷を水源とした堀に沿って海まで通じる南北方向の街路で、交通の要路でもあったことから、商業地として変容を続け、現在はR C建築が優勢な中、「茶六本館」(国登録文化財)のような大型木造建築や、伝統的衣装の和風建築も混在する、新旧入り混じった商業地としての街路景観を有しています。

また、すぐ南の通り突き当りに位置する佛性寺山門は、宮津の寺町地区への入り口として象徴的な建築なので、本町交差点付近からの視界を遮らないような配慮が求められます。

【今回の指定物件（西堀川通側）】



西堀川通り側



西堀川通り(万町交差点 南から)

【周辺の町家建築（西堀川通側）】



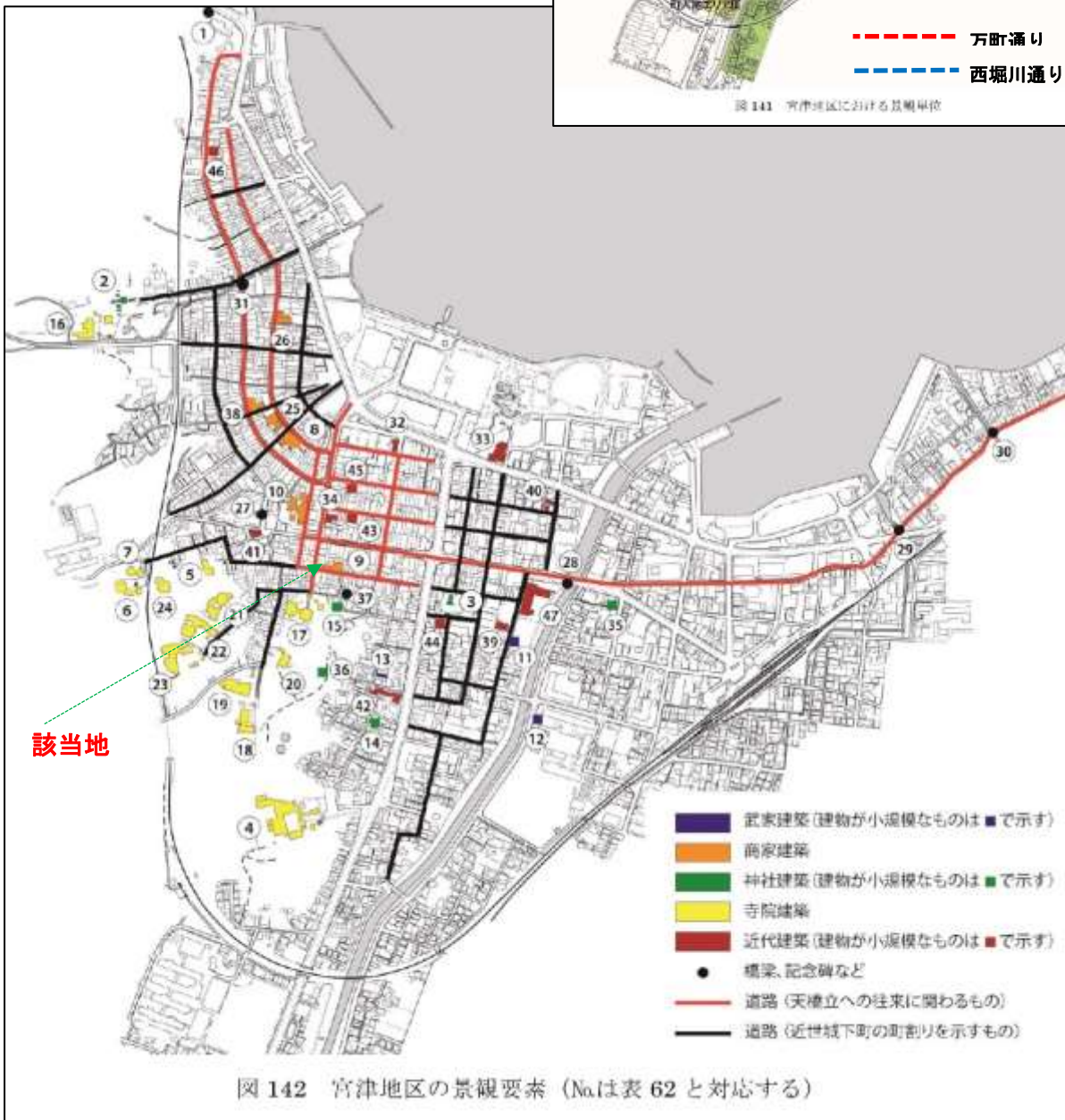
西堀川通り・茶六本館



西堀川通り・佛性寺山門(本町交差点 北から)

◆周辺の景観要素(建築物)

⑨	今林家住宅	町家建築
⑩	尾藤家住宅(袋屋)	町家建築
⑧	旧三上家住宅	町家建築
③④	茶六本館	木造旅館建築
⑰	佛性寺(山門)	寺院建築
⑰～⑳ 金屋谷寺院群		
⑤	見性寺(山門)	寺院建築
⑤～⑦⑳ 小川町寺院群		
⑮	桜山天満宮	神社建築
③	和貴宮神社	神社建築



※『宮津天橋立の文化的景観調査報告書〔宮津地区・補遺編〕』（宮津市 令和3年）から転載・改変